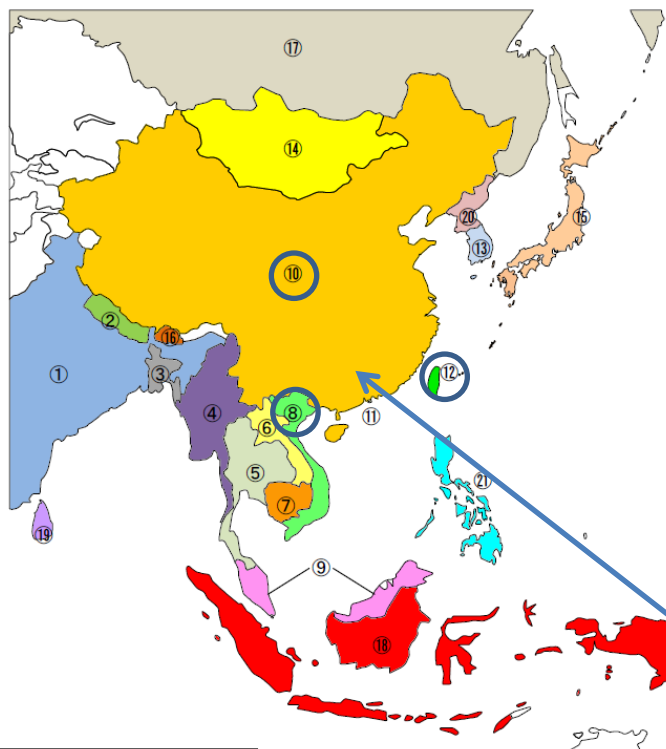


令和2年3月現在の鳥インフルエンザ情勢

現在まで日本国内の養鶏農場での高病原性鳥インフルエンザの発生及び死亡野鳥等からの高病原性鳥インフルエンザウイルスの検出事例はありません。

アジアにおける高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生状況



	① インド	② ネパール	③ ビングラデシュ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ ベトナム	⑨ マレーシア	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 韓国	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ ブータン	⑰ ロシア	⑱ インドネシア	⑳ 北朝鮮	㉑ スリランカ	㉒ フィリピン
2017年	1月	●																			
	2月		●																		
	3月		●																		
	4月			●																	
	5月																				
	6月																				
	7月																				
	8月																				
	9月																				
	10月																				
	11月																				
	12月																				
2018年	1月																				
	2月																				
	3月																				
	4月																				
	5月																				
	6月																				
	7月																				
	8月																				
	9月																				
	10月																				
	11月																				
	12月																				
2019年	1月																				
	2月																				
	3月																				
	4月																				
	5月																				
	6月																				
	7月																				
	8月																				
	9月																				
	10月																				
	11月																				
	12月																				
2020年	1月																				
	2月																				
	3月																				

2020年3月9日現在

OIEへの通報等を基に作成

(●: 家さん、▲: 野鳥、●▲: 高病原性鳥インフルエンザ、●▲: 低病原性鳥インフルエンザ)

※発生日、検体回収日に基づく

※野鳥の低病原性鳥インフルエンザについては、確認ができた韓国のみ記載

現在、渡り鳥の北帰行の時期に入っています。それが終わると春の渡り鳥のシーズンを迎えます。アジア周辺地域では依然、鳥インフルエンザの発生を認め、注意が必要です。

養鶏農場の皆様には引き続き発生予防対策を徹底していただき、万一、飼養する鶏に異常を認めたら、直ちに通報するようお願いいたします。